

令和4年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	4902	領域略称名	南極の海と氷床
研究領域名	熱-水-物質の巨大リザーバ：全球環境変動を駆動する南大洋・南極氷床		
領域代表者名 (所属等)	川村 賢二 (国立極地研究所・先端研究推進系・准教授)		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった)

(評価結果の所見)

本研究領域は、雪氷学、気候科学、海洋物理学や周辺研究分野の研究者が連携し、南極氷床と南大洋を中心とする南極環境をシステムとして研究する「南極環境システム学」の創成を目指すものである。南極環境における暖水と氷床・海洋との相互作用、暖水循環、氷床の実態が解明されるなど、個々の研究テーマに関しては多くの優れた成果が得られている。IPCC 第6次評価報告書に貢献したことも高く評価できる点である。これらの成果により、南極研究の発展に重要な貢献をしたと同時に、当該分野における日本のプレゼンスを大きく高めたといえる。また、多分野の研究者の連携を進め、学術的なコミュニティを形成できたことも評価できる。さらに、採択時審査結果で指摘された若手研究者の育成についても、多くの努力がなされている。一方で、多額の研究費を投入して開発した機器については、今後の応用研究の進展が待たれる。

総合的には期待どおりの成果が得られ、「南極環境システム学」の構築に向け大きく前進したと言える。今後、分野間の連携・融合の更なる推進や若手研究者の活躍などにより、地球科学分野に広く貢献していくことを期待する。